

| | |
|-----|--------------|
| 学校名 | 宮崎県立高鍋農業高等学校 |
|-----|--------------|

2019年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1 研究開発課題名

新たな時代の変化に対応できる次世代農業経営者及び関連産業技術者の育成に関する研究
～ みやざきの発展を担う起業家スピリットとスキルを備えた人材育成を目指して ～

2 研究の目的

上記人材の育成について、本校の目指す人物像をリンクさせた様々な具体的取組を実践することにより、これからのみやざきの農業や関連産業の中核となる担い手を数多く輩出することを目的とする。

3 実施期間

契約日から2020年3月13日まで

4 当該年度における実施計画

(1) 研究内容

①「高農ブランド」の農畜産物や加工品の品質向上と新商品の開発

「持続可能な農業を実現する力の育成」を目指し、下記の内容に取り組む。

ア 農場における安全・安心な農業学習に関する取組

- ・GAP及びHACCP教育の学習プログラムの構築
- ・ひなたGAPの認証取得
- ・ASIAGAPの認証取得に向けた取組

イ 農畜産物の付加価値向上と新商品に関する取組

- ・商業科目「商品開発」の教材及びプログラムの検証と再構築
- ・食品乾燥技術を活用した商品の新たな価値の創出と新商品の開発
- ・本校及び地域の農畜産物を使った商品の新たな価値の創出と新商品の開発

ウ 農畜産物のブランディング「高農デザインプロジェクト」に関する取組

- ・ブランドコンセプトの構築

②模擬会社「高農」の企画運営と農場会計を活用した経営実践

「農業経営を実践する力の育成」を目指し、下記の内容に取り組む。

ア 模擬会社「高農」の経営実践

- ・定期的な経営戦略会議や農場経営会議の開催と取組の実践

イ ICTを活用した原価計算管理の実践

ウ 高鍋農業高校販売所を活用した流通学習の実践、「マーケティング」の実践

③関連上級学校や地域との連携や寮教育をとおしたキャリア教育の充実

「農業及び関連産業を担う産業人の育成」を目指し、下記の内容に取り組む。

- ア 関連上級学校や関係機関との共同研究及び連携推進
 - ・コンソーシアム方式によるプロジェクト学習の継続研究
- イ デュアルシステムの研究
 - ・デュアルシステムの教育効果の検証とプログラムの再構築
- ウ 夢実現プログラムにおけるキャリア教育の実践
 - ・上級学校や地域と連携した地域活性化プロジェクトの実践
 - ・グローバル教育プログラムの開発

(2) 効果測定

①研究の効果

ア 定性目標の評価の仕方

生徒の観察（行動、発言、実技）や作品（ノート、レポート、プリント、成果物）、ポートフォリオなどにより客観的に評価する。

イ 定量目標の評価の仕方

生徒、教師、関連機関及び運営指導委員からのアンケートやルーブリック（自己評価及び他者評価）により客観的に評価する。本校における3年間の学び（普通科目、専門科目、寮教育など）の理解度や、生徒に身に付けさせたい資質・能力がどれ程伸長したかを、下記に示した4段階で評価し、2.8以上を目標とする。

| | | | |
|---------------|-------------|------|-------------------|
| 【評価基準】 | | | |
| レベル1 | できない・取り組めない | レベル2 | あまりできない・あまり取り組めない |
| レベル3 | できる・取り組める | レベル4 | 具体的にできる・積極的に取り組める |

ウ その他の評価の仕方

農業クラブ活動実績、各種大会実績、進路実績、資格取得状況などにより評価する。

②定性目標・定量目標の評価項目と効果測定

ア 「高農ブランド」の農畜産物や加工品の品質向上と新商品の開発

| 内容 | 定性目標の評価項目 | 定量目標の評価項目 | 効果測定 |
|--------------------------------------|--|---|--|
| (ア) 農場における安全・安心な農業学習に関する取組 | <ul style="list-style-type: none"> ●安全・安心な農業の理解向上 ●新たな技術及び知識の習得 ●GAP認証の理解と実践力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ●生徒の理解度、資質・能力 4段階評価 2.8以上 | <ul style="list-style-type: none"> ●アンケート ●ルーブリック ●観察法 <ul style="list-style-type: none"> ・行動 ・発言 ・実技 ●作品法 <ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・レポート ・プリント ・成果物 ●ポートフォリオ |
| (イ) 農畜産物の付加価値向上と新商品に関する取組 | <ul style="list-style-type: none"> ●マーケティングの理解と商品企画の提案力の向上 ●食品製造技術及び知識の習得 ●新たな技術及び知識の習得 ●本校及び地域の農畜産物の理解の向上 | | |
| (ウ) 農畜産物のブランディング「高農デザインプロジェクト」に関する取組 | <ul style="list-style-type: none"> ●ブランド化意欲の向上 | | |

イ 模擬会社「高農」の企画運営と農場会計を活用した経営実践

| 内容 | 定性目標の 評価項目 | 定量目標の 評価項目 | 効果測定 |
|--|---|---|--|
| (ア) 模擬会社「高農」 の経営実践 | <ul style="list-style-type: none"> ●農業経営への意識と経営感覚の醸成 ●コミュニケーション能力の向上 ●知的財産学習の進化と意欲向上 | <ul style="list-style-type: none"> ●生徒の理解度、 資質・能力 4段階評価 2. 8以上 | <ul style="list-style-type: none"> ●アンケート ●ループリック ●観察法 <ul style="list-style-type: none"> ・行動 ・発言 ・実技 ●作品法 <ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・レポート ・プリント ・成果物 ●ポートフォリオ |
| (イ) ICTを活用した 原価計算管理の実践 | <ul style="list-style-type: none"> ●新たな技術及び知識の習得 ●農業経営への意識と経営感覚の醸成 | | |
| (ウ) 高鍋農業高校販売 所を活用した流通学習の 実践、「マーケティング」 の実践 | <ul style="list-style-type: none"> ●マーケティングの理解向上 ●コミュニケーション能力の向上 | | |

ウ 関連上級学校や地域との連携や寮教育をとおしたキャリア教育の充実

| 内容 | 定性目標の 評価項目 | 定量目標の 評価項目 | 効果測定 |
|-------------------------------------|---|---|--|
| (ア) 関連上級学校や関 係機関との共同研究及び 連携推進 | <ul style="list-style-type: none"> ●共同研究及び研究課題の理解 ●課題解決意欲の向上 ●コミュニケーション能力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ●生徒の理解度、 資質・能力 4段階評価 2. 8以上 | <ul style="list-style-type: none"> ●アンケート ●ループリック ●観察法 <ul style="list-style-type: none"> ・行動 ・発言 ・実技 ●作品法 <ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・レポート ・プリント ・成果物 ●ポートフォリオ |
| (イ) デュアルシステム の継続研究 | <ul style="list-style-type: none"> ●職業理解の向上 ●地元企業理解の向上 ●コミュニケーション能力の向上 | | |
| (ウ) 夢実現プログラム におけるキャリア教育の 実践 | <ul style="list-style-type: none"> ●地域創生の理解の向上 ●コミュニケーション能力の向上 | | |

③育成する資質・能力とその定義及び成果指標

本校における3年間の学び（普通科目、専門科目、寮教育など）をとおして、「知識・技術」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」を基本的な資質・能力として、また、各学年で段階的に身に付ける資質・能力として、1年次で「現状認識力・科学的思考力」、2年次で「チャレンジ力・課題発見力」、3年次で「創造力・課題解決力」の育成を図る。

3年間の寮教育をとおして、知・徳・体の調和のとれた豊かな心と逞しく生きる人間形成を目指して、「コミュニケーション力」、「協調性」、「リーダー性」の育成を図る。

ア 本校における3年間の学びをとおして育成する資質・能力

(ア) 育成する資質・能力とその定義

| 資質・能力 | 定義 |
|---------|--------------------------------------|
| 知識 | 取組において習得すべき知識や重要な概念等を理解している |
| 技術 | 目的を達成するためには、どのような技術が必要か分かる |
| 思考力 | 目の前の状況や起きていることについて、考えや思いを巡らせることができる力 |
| 判断力 | 物事に対して、自ら考えて決めることができる力 |
| 表現力 | 自分の意見を伝えることができる力 |
| 学びに向かう力 | 自分がやるべきことに主体的に取り組むことができる力 |

(イ) 育成する資質・能力の成果指標

| 資質・能力 | できない 取り組めない | あまりできない あまり取り組めない | できる 取り組める | 具体的にできる 積極的に取り組める |
|---------|---------------------------------------|--|--------------------------------------|--|
| 知識 | 取組において習得すべき知識や重要な概念等を理解していない。 | 取組において習得すべき知識や重要な概念等をあまり理解していない。 | 取組において習得すべき知識や重要な概念等を理解している。 | 取組において習得すべき知識や重要な概念等を十分に理解している。 |
| 技術 | 目的を達成するためには、どのような技術が必要か分からない。 | 目的を達成するためには、どのような技術が必要かあまり分からない。 | 目的を達成するためには、どのような技術が必要か分かる。 | 目的を達成するために、身に付けた技術を使うことができる。 |
| 思考力 | 目の前の状況や起きていることについて、考えや思いを巡らせることができない。 | 目の前の状況や起きていることについて、考えや思いを巡らせることがあまりできない。 | 目の前の状況や起きていることについて、考えや思いを巡らせることができる。 | 目の前の状況や起きていることについて、考えや思いを巡らせ、まとめることができる。 |
| 判断力 | 物事に対して、自ら考えて決めることができない。 | 物事に対して、自ら考えて決めることがあまりできない。 | 物事に対して、自ら考えて決めることができる。 | 物事に対して、自ら考えてよりよい方法で決めることができる。 |
| 表現力 | 自分の意見を伝えることができない。 | 自分の意見を伝えることがあまりできない。 | 自分の意見を伝えることができる。 | 自分の意見を分かりやすく伝えることができる。 |
| 学びに向かう力 | 自分がやるべきことに取り組むことができない。 | 自分がやるべきことに取り組むことがあまりできない。 | 自分がやるべきことに主体的に取り組むことができる。 | 自分がやるべきことに主体的に取り組む、それを継続することができる。 |

イ 各学年で段階的に育成する資質・能力

(ア) 育成する資質・能力とその定義

| 学年 | 資質・能力 | 定義 |
|-----|--------|----------------------|
| 1年生 | 現状認識力 | 物事を正しく理解する力 |
| | 科学的思考力 | 情報を整理し考える力 |
| 2年生 | チャレンジ力 | 課題解決に向け挑戦する力 |
| | 課題発見力 | 現状を分析し、目的や課題を明らかにする力 |
| 3年生 | 創造力 | 新しい価値を生み出す力 |
| | 課題解決力 | 課題を解決できる力 |

(イ) 育成する資質・能力の成果指標

| 学年 | 資質・能力 | できない 取り組めない | あまりできない あまり取り組めない | できる 取り組める | 具体的にできる 積極的に取り組める |
|-----|--------|-----------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------|
| 1年生 | 現状認識力 | 観察や記録が全くできず、学習内容を全く理解できない。 | 観察や記録が少なく、学習内容の理解が不足している。 | 観察や記録の内容が適切で、学習内容を大体理解している。 | 観察や記録が正しく、整理し記録できた。学習内容を十分理解している。 |
| | 科学的思考力 | 座学で学んだ知識を実験や実習の場面で全く実践できない。 | 座学で学んだ知識を実験や実習の場面であまり実践できない。 | 座学で学んだ知識を実験や実習の場面で実践できる。 | 座学で学んだ知識を実験や実習で的確に実践できる。 |
| 2年生 | チャレンジ力 | 農業実習やプロジェクト活動に取り組む意欲が全くない。 | 農業実習やプロジェクト活動に消極的である。 | 農業実習やプロジェクト活動に挑戦している。 | 農業実習やプロジェクト活動に主体的に挑戦している。 |
| | 課題発見力 | 農業学習の中で、課題を発見することが全くできない。 | 農業学習の中で、課題を見つけ出そうとしている。 | 農業学習をとおして、農業の課題を認識できる。 | 農業に関する知識を整理し、現状の課題を分析できる。 |
| 3年生 | 創造力 | プロジェクト活動や課題研究をとおして、創造的な活動が全くできない。 | プロジェクト活動や課題研究をとおして、創造的な活動が不足している。 | プロジェクト活動や課題研究をとおして、創造的な活動ができる。 | プロジェクト活動や課題研究をとおして、主体的に創造的な活動が熱心にできる。 |
| | 課題解決力 | プロジェクト活動や課題研究で仮説を立てることができない。 | プロジェクト活動や課題研究で仮説を立てることができない。 | プロジェクト活動や課題研究で解決イメージを持って、活動できる。 | プロジェクト活動や課題研究で、課題を解決でき考察が正確にできる。 |

ウ 寮教育で段階的に育成する資質・能力

(ア) 育成する資質・能力とその定義

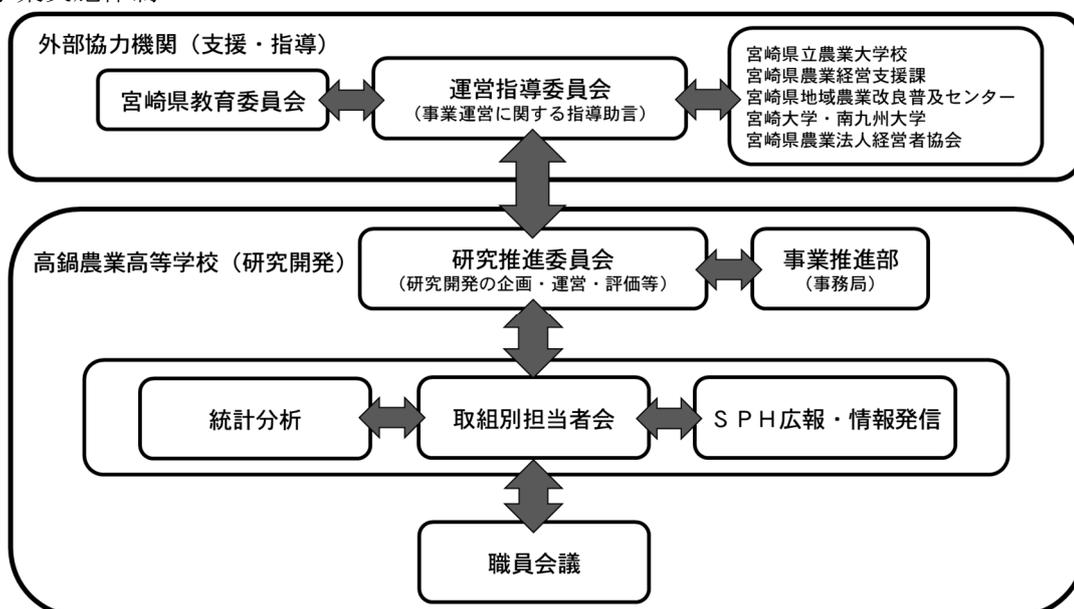
| 学年 | 資質・能力 | 定義 |
|-----|------------|--------------------------|
| 1年生 | コミュニケーション力 | 相手が伝えたいことや相手の意図を理解する能力 |
| 2年生 | 協調性 | 共通の目標や目的に向かって周囲の人間と助け合う力 |
| 3年生 | リーダー性 | 目標に向かって価値あるゴールに向けて行動する力 |

(イ) 育成する資質・能力の成果指標

| 学年 | 資質・能力 | できない 取り組めない | あまりできない あまり取り組めない | できる 取り組める | 具体的にできる 積極的に取り組める |
|-----|------------|--|--|---------------------------------|--------------------------------------|
| 1年生 | コミュニケーション力 | あいさつができない。相手が伝えたいことや相手の意図を理解することができない。 | あいさつができる。相手が伝えたいことや相手の意図を理解することが少しできる。 | あいさつができる。相手が伝えたいことや相手の意図を理解できる。 | あいさつができる。思いやりのある言葉と行動ができ、頼れる関係が作れる。 |
| 2年生 | 協調性 | 寮生活において、周囲の人間と助け合うことができない。 | 寮生活において、周囲の人間と助け合うことが少しできる。 | 寮生活において、周囲の人間と助け合うことができる。 | 寮生活において、他者を理解し、お互いに支え合いながら物事を進めていける。 |
| 3年生 | リーダー性 | 寮生活の中で、寮生の模範となる自主的な行動ができない。 | 寮生活の中で、寮生の模範となる自主的な行動が少しできる。 | 寮生活の中で、寮生の模範となる自主的な行動ができる。 | 寮生活の中で、リーダー性を発揮し級友や後輩の模範となる行動ができる。 |

5 実施体制

(1) 事業実施体制



(2) 運営指導委員会

| 氏名 | 所属・職名 | 役割分担・専門分野等 |
|------|--------------------------------|------------------|
| 中瀬昌之 | 南九州大学健康栄養学部教授 | 委員長（座長） |
| 松田義信 | 児湯農林振興局次長（兼） 児湯農業改良普及センター所長 | 指導助言・農業政策 |
| 横山英二 | 高鍋町農業政策課長 | 指導助言・農業振興 |
| 槐島芳徳 | 宮崎大学農学部准教授 | 指導助言・連携事業等 |
| 木村尚人 | 有限会社大岩建設専務取締役 | 指導助言・会社経営 |
| 池田誠 | 株式会社くしまアオイファーム社長 | 指導助言・法人経営・農産物輸出 |
| 藤藪志保 | 宮崎県産業振興機構プロデューサー | 指導助言・新商品開発・連携事業等 |
| 松木成己 | 高鍋商工会議所専務理事 | 指導助言・会社経営 |
| 山本泰嗣 | 宮崎県立農業大学校長 | 指導助言・連携事業等 |
| 児玉康裕 | 宮崎県教育庁高校教育課長 | 指導助言・教育行政 |

(3) 研究推進委員会

| 氏名 | 所属・職名 | 役割分担・専門分野等 |
|-------|------------------|------------------|
| 萩原浩二 | 高鍋農業高等学校・校長 | 委員長・全体統括 |
| 岩切哲郎 | 高鍋農業高等学校・教頭 | 副委員長・連絡調整 |
| 佐々木真司 | 高鍋農業高等学校・事務長 | 副委員長・予算管理・経理事務 |
| 立野秀行 | 高鍋農業高等学校・主幹教諭 | 事業推進部主任 |
| 横田雅人 | 高鍋農業高等学校・教諭 | 事業推進部副主任 |
| 村山範朗 | 高鍋農業高等学校・教諭 | 事業推進部副主任 |
| 長澤良彦 | 高鍋農業高等学校・教諭 | 事業推進部 |
| 黒木弘美 | 高鍋農業高等学校・教諭 | 事業推進部 |
| 岩崎誠司 | 高鍋農業高等学校・教諭 | 取組主担当・農場長 |
| 田住智博 | 高鍋農業高等学校・教諭 | 取組主担当・フードビジネス科主任 |
| 黒木修一 | 高鍋農業高等学校・教諭 | 取組主担当・畜産科学科主任 |
| 眞茅喜成 | 高鍋農業高等学校・教諭 | 取組主担当・食品科学科主任 |
| 池田和仁 | 高鍋農業高等学校・教諭 | 取組主担当・園芸科学科主任 |
| 椿本直基 | 高鍋農業高等学校・教諭 | 取組主担当・舎監長 |
| 成合理恵子 | 高鍋農業高等学校・教諭 | 総計分析・教務主任 |
| 小川晴彦 | 高校教育課産業教育担当・主幹 | 各プログラムへの指導助言 |
| 谷口泰成 | 高校教育課産業教育担当・指導主事 | 各プログラムへの指導助言 |

(4) 研究開発（事業統括）

| 氏名 | 職名 | 役割分担・担当教科 |
|------|------|----------------------|
| 立野秀行 | 主幹教諭 | 主任・教科「農業」（園芸科学科） |
| 横田雅人 | 教諭 | 副主任・教科「農業」（畜産科学科） |
| 村山範朗 | 教諭 | 副主任・教科「農業」（フードビジネス科） |
| 長澤良彦 | 教諭 | 教科「商業」 |
| 黒木弘美 | 教諭 | 教科「英語」 |

6 会議等実施計画

| 活動時期 | 委員会等 | 内容等 |
|--------------|---|--|
| 4月 | <input type="checkbox"/> 職員会議 <input checked="" type="checkbox"/> 研究担当者会 <input type="checkbox"/> 研究推進委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究開発の概要について、全職員への周知徹底 ・研究担当者ごとに研究内容の確認と意見交換 ・研究開発の内容と具体的計画の確認 |
| 5月 | 14日(火)第1回運営指導委員会 <input type="checkbox"/> 研究推進委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ・第2年次事業報告・第3年次事業計画 ・第1回運営指導委員会からの意見の反映と対応 |
| 6月 | <input type="checkbox"/> 研究推進委員会 | ・進捗状況の確認 |
| 7月 | <input type="checkbox"/> 職員会議 <input checked="" type="checkbox"/> 研究担当者会 <input type="checkbox"/> 研究推進委員会 24日(水)第2回運営指導委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究開発の進捗状況についての確認 ・研究担当者ごとに研究開発の進捗状況の確認 ・事業経過報告・協議 |
| 8月 | <input type="checkbox"/> 研究推進委員会 | ・第2回運営指導委員会からの意見の反映と対応 |
| 9月 | <input checked="" type="checkbox"/> 研究担当者会 <input type="checkbox"/> 研究推進委員会 <input type="checkbox"/> 職員会議 | ・各取組の検証 |
| 10月 | <input type="checkbox"/> 研究推進委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 研究担当者会 <input type="checkbox"/> 職員会議 17日(木)SPH研究成果中間発表会 26日(土)・27日(日) 全国産業教育フェア新潟大会 | <ul style="list-style-type: none"> ・各取組の検証 ・12月SPH研究成果発表に向けた中間発表会 ・事業発表会 |
| 11月 | <input type="checkbox"/> 研究推進委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 研究担当者会 <input type="checkbox"/> 職員会議 | ・成果発表会に向けた協議 |
| 12月 | <input type="checkbox"/> 研究推進委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 研究担当者会 <input type="checkbox"/> 職員会議 17日(火)SPH研究成果報告会 | <ul style="list-style-type: none"> ・成果発表会に向けた協議 ・事業発表会 |
| 1月 | 15日(水)第3回運営指導委員会 <input type="checkbox"/> 研究推進委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 研究成果報告書作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・報告書作成に向けた運営指導委員からの指導・助言 ・研究成果報告書作成準備 |
| 2月 | <input type="checkbox"/> 研究推進委員会 2019年度SPH成果発表会 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究成果報告書の内容確認 ・文部科学省での成果発表 |
| 3月 | <input type="checkbox"/> 研究推進委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 文部科学省へ報告書等を提出 | ・事業終了書類等の確認 |
| 4～3月 (通年) | <ul style="list-style-type: none"> ・本研究開発に取り組むことが生徒の内発的学習意欲を高め、本校が目指す人材を育成していくことができる | <ul style="list-style-type: none"> ①「高農ブランド」の農畜産物や加工品の品質向上と新商品の開発 ②模擬会社「高農」の設立と農場会計を活用した経営実践 ③関連上級学校や地域との連携や寮教育をとおしたキャリア教育の充実 |

7 この事業に関連して補助金等を受けた実績

| 補助金等の名称 | 交付者 | 交付額 | 交付年度 | 業務項目 |
|---------|-----|-----|------|------|
| | | | | |

8 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

(○) 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

() 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有・無

※有の場合、別紙3に詳細を記載のこと。

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

別紙2に記載